

Heinbucher von Bikkessy, J.

**Pannoniens Bewohner in ihren volkstümlichen Trachten auf 78 Gemälden dargestellt; nebst ethnographischer Erklärung.**

Wien, 1820. (文献番号7-41)

Hiler. p422 Colas 1416 Lipperheide 893

ハインブーチャー フォン ビッケジ編著

78枚の図版によるパンノニア住民の民族服；民族学的解説を含めて

パンノニアはドナウ河以西地方、現在のハンガリー西部地帯に当たる。この地には、もともとイリュリア人とケルト人が住んでいたが、古代ローマの著作者たちによってパンノン人と呼ばれ、のちにローマ帝国の属州となり、この地をパンノニアと呼ぶようになった。

ハンガリーはユーゴスラヴィア、チェコスロバキア、ルーマニア等5ヶ国に国境を接し、中部ヨーロッパの辺境的な運命と東部ヨーロッパの複雑で激しい民族の動きがしばしばこの国の歴史に描き出されている。ハンガリーの主要民族はマジャール人で、母国語でハンガリーをマジャールと呼んでいるが、スロヴァキア人、セルビア人、ドイツ人など様々な民族が混在している。それぞれの民族は定住した地に民族本来の文化・風習を植えつけ、また土着のものと融合して独自の文化を築いた。本書は、まず前半で、複雑多様なハンガリーの概説を述べ、次に各地区ごとに住民の人種構成、宗教、職業、生活などを民族学的に解説している。後半は、この王国に住んでいる人々の服装、民族服、歴史服など78枚の図版を収めているが、なかでも市民服と軍服が多い。民族服はアジア・トルコ系のもの、東欧圏のものが見られる。ローマ軍の退役兵、ハンガリー軍の将校、トルコの兵隊などの軍服が多いのも、この地が古来より軍事的性格が強かったことを示している。また、多様な民族の垣塙<sup>あづま</sup>であるところから商業交易が活発でシリアや小アジアの商人の服装も見られる。その他、宗教服、大貴族や地主の服装、金持ち、成金の服装なども興味深い。図版にはハンガリー語とドイツ語の題名があり、図版の解説も詳細に書かれている。書誌によれば本書は200部出版されている。

図は「シリア、ペーターヴァダイナー国境地区の娘」セルビア人の娘は祭日用の衣装を身につけ水を汲みに行こうとしている。ガラス玉と何連にも重った金メダルの首飾をつけ、服はウール製で多色の絹糸で刺繍をし、メリヤス編みの房飾りがついている。

(平井)

